



泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校
学校だより No39
文責 芹川博文
2月22日(木)

創立150周年の歴史と未来「残していくべきもの」は・・・ ～ 時代を超えて泗水小学校に脈々と流れ受け継がれてきたもの ～

時代と共に変わる、その時々「当たり前」。右の文は、創立百周年の記念誌の中の文です。「中には子供を背負って登校する女の子もいました」とのこと。今では信じられない光景が、当時は日常の一コマだったことでしょう。

来年度の創立150周年を前に、大切に残していくべきものは何かを考えさせられます。子どもたちと共に考えていきたいと思ひます。



追憶

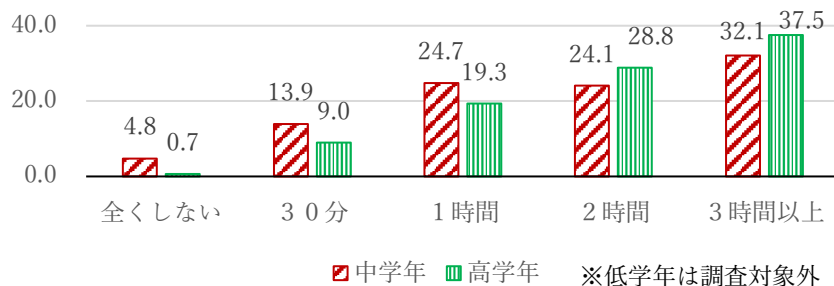
私は、明治35年豊水尋常小学校に入学した者ですが、長生きのお陰で百周年の盛典に会うことができました。当時の校舎は竹之下の竹林の南にあり、建物は旧式なお粗末なもので正に学び舎に相応しい古風なものでした。先生は羽織袴に下駄履姿、生徒も着物ばかりで、中には子供を背負って登校する女の子もいました。学科は、修身・国語・算術・体操・唱歌など簡単なものばかり、勉強よりむしろ遊ぶことに夢中でありました。・・・(後略)

平日のテレビ、動画、ネット、ゲーム時間1日3時間以上 3割強 ～ 県学力調査アンケート (i-check シート) の結果から No.3～

「帰宅後友達と遊ぶことも難しいので、学校で友達とたくさん遊ぶ時間も確保されてもよいのかなと思ったりもします」という貴重なご意見を教育評価アンケートでいただきました。

どんなに早く下校しても、ゲーム等の時間が増えるだけでは考えものです。右の結果では、半数以上の子どもが、毎日2時間以上、3分の1は3時間以上使用しているという結果でした。私が小学生の頃は、帰宅後も子どもたちが集まる「いつもの場所」があり、暗くなるまで遊んでいました。体力や季節感、協調性などが、自然と身につく環境だったと振り返ります。帰宅後、どのように過ごすことが「最適」なのか。「快適さ」であれば、エアコンをつけた部屋で長時間ゲームということも当てはまるかもしれませんが、昔と違い、帰宅後の過ごし方は、毎日の食べ物と同じで「好きなものだけ」の選択に偏らないバランスが大切なのではと思います。

平日、1日どれくらいの時間、テレビや動画を見たり、インターネットやゲームをしたりしますか。



6年生「卒業生の顔」に

～ 校内の遊具、玄関のペンキ塗りの姿から ～

6年生がペンキを塗る姿に、「卒業生の顔」になってきたことを感じました。はみ出した部分をコンクリートに膝をつき、黙々と拭きあげる姿。写真に納まる時の笑顔の爽やかさ。その空気感に、さすが下級生の目標となり、憧れの存在である6年生だと感じました。

同様に、5年生も先日の新入生体験入学では、お世話をする姿に6年になる自覚が伝わってきました。各学年でも進級の準備が進んでいます。



うさぎの「未来」について

～ ご協力ありがとうございました ～

3週間前、ウサギの引き取りについてお願いしましたが、皆様のご協力のお陰で申し出をいただきました。本当にありがとうございました。



今後、申し出ていただいた方と情報を交換しながら進めてまいります。

引き取りの時期は未定ですが、現在のところ3月の修了式の日(3月22日)までは、いる予定です。それまでの間、たくさん眺めたり、触れ合ったりしてほしいと思います。

これまで、たくさんの人の心を癒してくれたウサギたち、本当にありがとう。